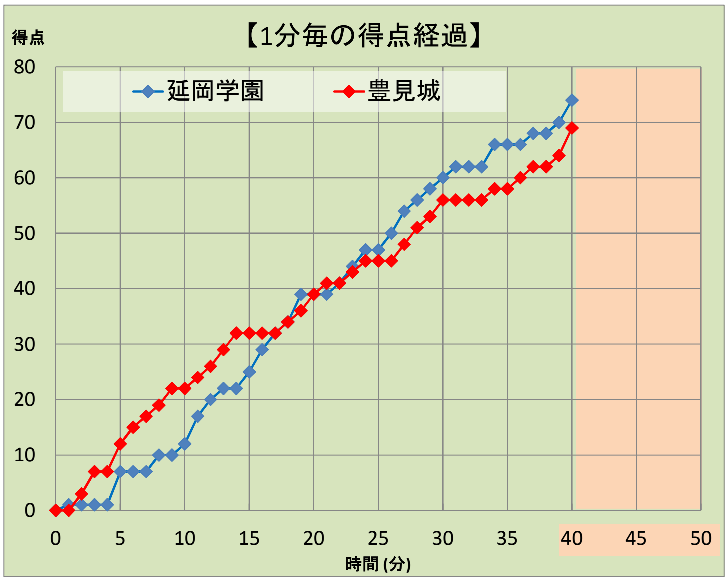
第49回全九州高等学校バスケットボール春季選手権大会



会場	福岡市総合体育館	
日時	平成31年3月24日　（日）	13:30
コート	Bコート	第4試合
カテゴリー	男子	シード決定戦
主審	甲木 善徳	
第1副審	和田 敏文	
第2副審	野田 明男	

TEAM A					TEAM B
延岡学園	74	12	1st	22	69	豊見城
宮崎1位		27	2nd	17		沖縄1位
		21	3rd	17		
		14	4th	13		
			OT			
○						●

【BOXスコア】

TEAM A	延岡学園高等学校						
番号	選手名		得点	3P	2P	FT	反則
4	中小路　優		0				
5	ポーグ　健		0				2
6	前田　陽向		0				
7	諸石　雅也	○	4		2		1
8	山本　裕樹		9	3			
9	市川　廉太郎	○	9	2	1	1	3
10	高橋　寛太		0				
11	森下　瞬真	◎	20	1	7	3	2
12	片伯部　樂年		3	1			
13	水野　虎太郎		0				
14	伊東　和希		0				
15	MUYA KABANGU FRANCIS	○	16		7	2	2
16	松田　駿佑		0				
17	田中　虎太郎		0				
18	木下　岳人	○	13	2	2	3	3
コーチ	楠元　龍水						
合　　計			74	9	19	9	13

TEAM B	豊見城高等学校						
番号	選手名		得点	3P	2P	FT	反則
4	比嘉 颯人		0				
5	渡久地 政睦	○	11		5	1	4
6	伊良部 龍侍		0				
7	赤嶺 有奎	◎	15	4	1	1	1
8	喜納 秀雅		0				
9	長濱 凌		2			2	5
10	桃原 奨	○	16	1	6	1	4
11	嘉数 啓希	○	20	2	7		1
12	新垣 隆太		0				
13	元長 亮介		0				
14	登川 莉玖士		0				
15	諸見田 敬介	○	5	1		2	
16	伊敷 鉱太郎		0				
17	赤嶺 敬将		0				
18	知念 拓己		0				
コーチ	嘉陽　宗紀						
合　　計			69	8	19	7	15

【戦評】

全九州大会シード決定戦、宮崎県1位延岡学園対沖縄県1位豊見城との対戦、スターティングメンバ―は延岡学園が＃7、＃9、＃11、＃15、＃18、豊見城が＃5、＃7、＃10、＃11、＃15で試合開始。第1Q序盤は豊見城ペース。延岡学園センター#15の高さを封じ、ターンオーバーから＃5のドライブやブレイクなどで得点。対する延岡学園はフリースローで得た1点のみと苦しい展開。開始2分半を経過したところで1-7となり、延岡学園はたまらずタイムアウト。ここから＃12、＃18の連続3ptsで巻き返しを図ると、対する豊見城も＃5の鋭いドライブや＃7の3ptsで主導権を渡さず、12-22と豊見城10点リードで第1Q終了。第2Q、延岡学園＃15がポストプレイからの3連続得点で点差を縮める。豊見城もピック&ロール、#7のドライブから＃10が合わせてバスケットカウントワンスローで再度引き離すなど一進一退の攻防が続く中、少しずつ延岡学園が詰め寄り、残り3分ついに32-32の同点に追いつく。そこからは互角の展開が続き、39-39で前半を終えた。第3Qも序盤は接戦の展開。延岡学園は＃15がスクリーンで味方のノーマークを作り3pts攻勢。対する豊見城は相手センターの＃15にマークされる＃10が高い位置に上がることで空いたスペースを他の選手が攻めて着実に2点を決めるものの、徐々に延岡学園の高さに苦しみ、リードされる展開となる。しかし、＃7がブザービーターの3ptsを決め、60-56の4点差まで詰めて第3Q終了となった。第4Q、攻勢を強めたい延岡学園であるが、豊見城＃10が徹底したボックスアウトで延岡学園センター＃15のオフェンスリバウンドを封じ、攻めてはローハイのコンビネーションで味方＃11のミドルシュートを演出する。お互いに意地の攻防を繰り広げる中、最後は延岡学園＃15が3連続得点で豊見城の追い上げを振り切り、74-69で試合終了となった。

【戦評記載者】　飯田　啓介
福岡県バスケットボール協会